

東京デフリンピックを通じて築く 共生社会の未来

合同会社HOS
デフ卓球 木村亜美



自己紹介

木村 亜美

Kimura Ami

デフ卓球選手

合同会社HOS 所属

北海道小樽市出身

北星学園大学 文学部

心理・応用コミュニケーション学科

2021年卒



卓球をはじめたきっかけ

全校生徒 7 人の小学校に通っていたこと
兄姉が先に始めていたこと



卓球の経歴

4歳で卓球を始める

余市町の少年団に通う



札幌龍谷高校に進学



北星学園大学に進学

デフ卓球に出会う

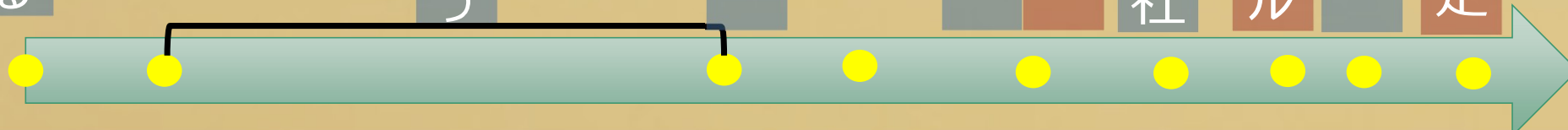


ドコモCS北海道に入社

世界大会で金メダル

合同会社HOSに転職

デフリンピック日本代表内定



デフリンピックとは

聴覚障がいを持つアスリートのための国際競技大会

スポーツを通じて、障がいをもつアスリート同士の交流や、社会とのつながりを深める

パラリンピックとの違いは？

	パラリンピック	デフリンピック
対象	肢体不自由、視覚障がいなど	聴覚障がい
主催団体	国際パラリンピック委員会	国際ろう者スポーツ委員会
コミュニケーション	音声	手話や目で見えるサイン
補助器具	車いすや義足などOK	補聴器・人工内耳装用禁止

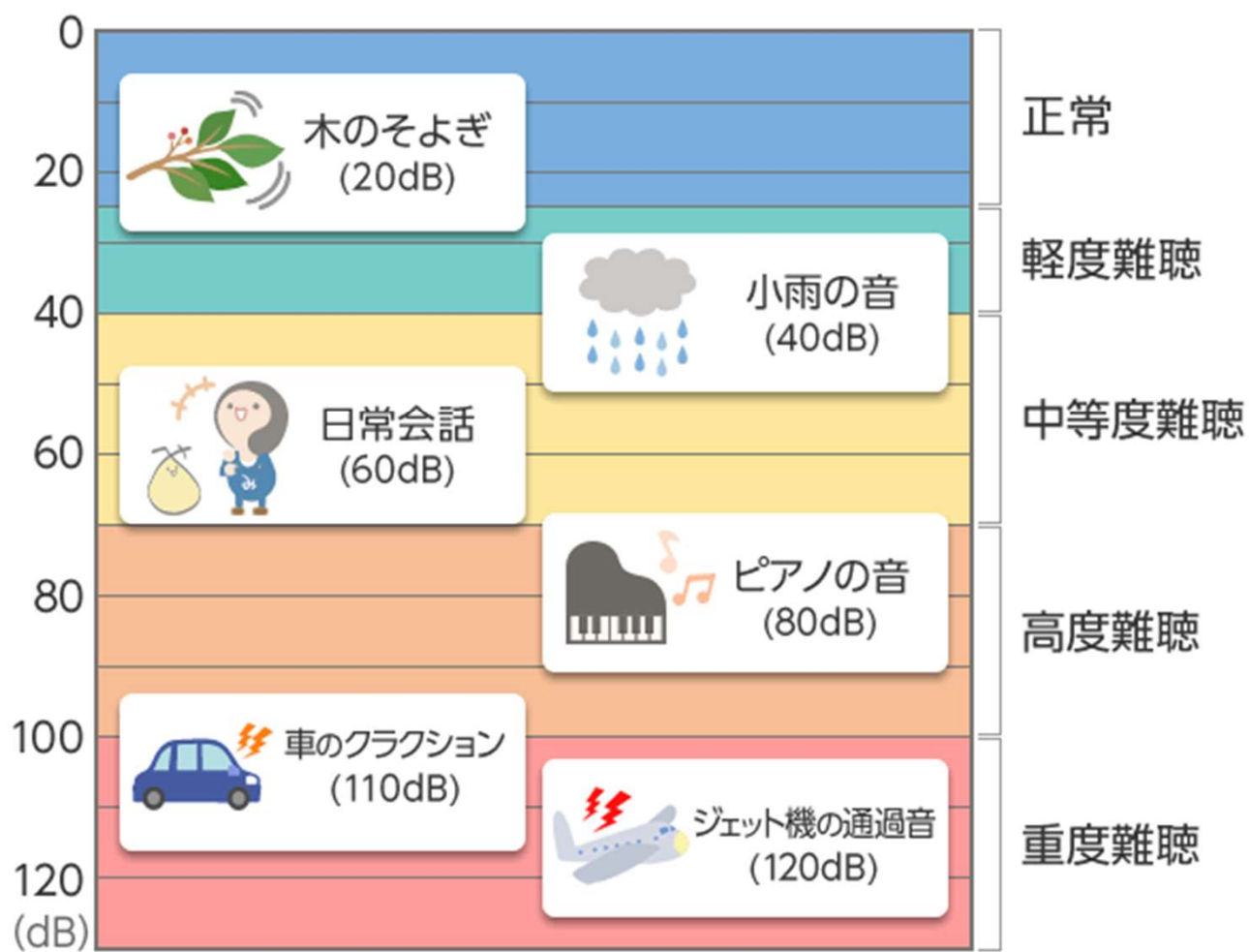
デフリンピックに出場するための
出場条件は？聴力が…

②

55db

以上

難聴の程度



なぜ補聴器を外すの？

人によって聴力の程度が違うから。

全員聞こえない状態で“**公平に**”試合するため。

パラリンピック

道具で機能を補うこと
自体が前提

デフリンピック

聞こえないことが前提

共生社会とは

障がいの有無や年齢、性別、国籍など、
さまざまな違いのある人々が
相互に尊重し合い、
支え合いながら共に生きていく社会 のこと。

Google先生より

デフリンピックの目的とは

東京2025デフリンピック
大会情報サイト

大会を知る ↓

寄附・協賛 ↓

組織情報 ↓

お知らせ

大会ビジョン

1

デフスポーツの
魅力や価値を伝え
人々や社会とつなぐ

2

世界に、
そして未来に
つながる大会へ

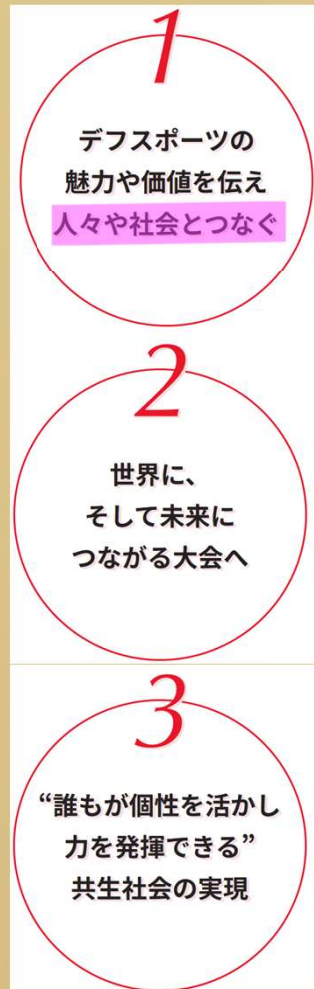
3

“誰もが個性を活かし
力を発揮できる”
共生社会の実現



<https://deaflympics2025-games.jp/main-info/about/>

デフリンピックの目的とは



共生社会とは

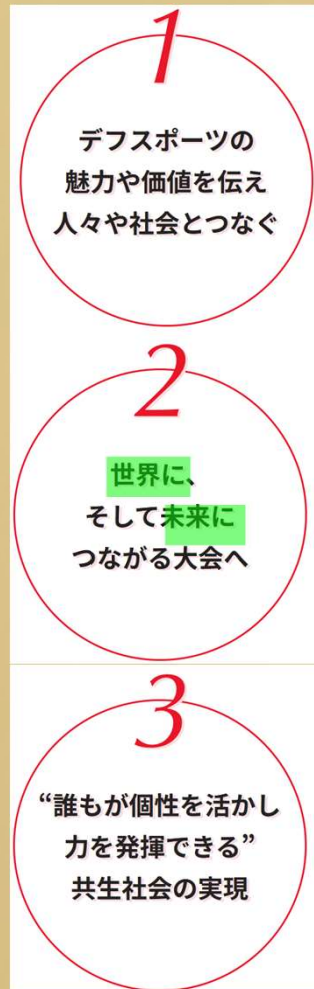
障がいの有無や年齢、性別、国籍など、

さまざまな違いのある人々が

相互に尊重し合い、

支え合いながら共に生きていく社会 のこと。

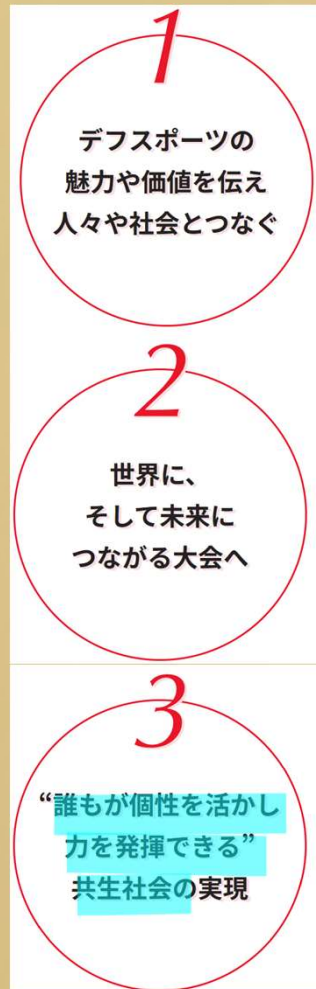
デフリンピックの目的とは



共生社会とは

障がいの有無や年齢、性別、**国籍**など、
さまざまな違いのある人々が
相互に尊重し合い、
支え合いながら**共に生きていく社会**のこと。

デフリンピックの目的とは



共生社会とは

障がいの有無や年齢、性別、国籍など、

さまざまな違いのある人々が

相互に尊重し合い、

支え合いながら共に生きていく社会 のこと。

つまり

デフリンピックを通して
共生社会が実現される

2020東京パラリンピック開催に向けて…



第2章 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた動き 3

(3)公共交通のバリアフリー化

<バリアフリー普及に向けた基準等の策定・改定>

- ・2021年度からの5年間を目標期間とする新しいバリアフリー整備目標を策定。これにより、地方部を含めたハード・ソフト両面でのバリアフリー化をより一層推進。
- ・2020年3月、山手線内を中心に単独乗降しやすい駅を路線図上でわかりやすく示したバリアフリーマップを公表。

<新幹線の車椅子スペースの設置義務化>

- ・新幹線における車椅子用フリースペースの設置を2021年7月から義務化（東海道新幹線では6名の車椅子使用者が同時に利用可能に）。

<公共交通事業者向け接遇ガイドラインの策定>

- ・2021年2月、公共交通事業者向け「知的・発達障害者等に対する公共交通機関の利用体験実施マニュアル(案)」を策定、「公共交通事業者に向けた接遇ガイドライン(認知症の人編)」を公表。

具体的に、
車いす・知的障がい・発達障がい
に対するバリアフリーを推進する

2020東京パラリンピック開催に向けて…

2016年4月 1 日 障害者差別解消法 が施行

目的：

障害の有無にかかわらず、すべての人が相互に人格と個性を尊重し合いながら**共生する社会の実現を目指し、障害を理由とする差別の解消を推進すること**

改正されたものが2024年に施行

民間事業者に対する**「合理的配慮」が努力義務から『義務』に強化された**

つまり

東京パラリンピック開催によって、
バリアフリーの推進が加速した

つまり

**東京デフリンピックが
日本で開催されることにより
聴覚障がいに対する
バリアフリーの加速が期待される**

論点	社会モデル	個人モデル
障がいとは	社会の問題	障がいをもつ人 自身の問題
目標	社会参加の実現	正常への回復 社会復帰
分析の視点	社会のどこが 問題なのか	障がい者のどこが 問題なのか

久野(2018) 社会の障害をみつけよう-一人ひとりが主役の障害平等研修- より抜粋

社会モデル

スタートの合図は
ピストルの音のみ



個人モデル

聴覚に障がいがある

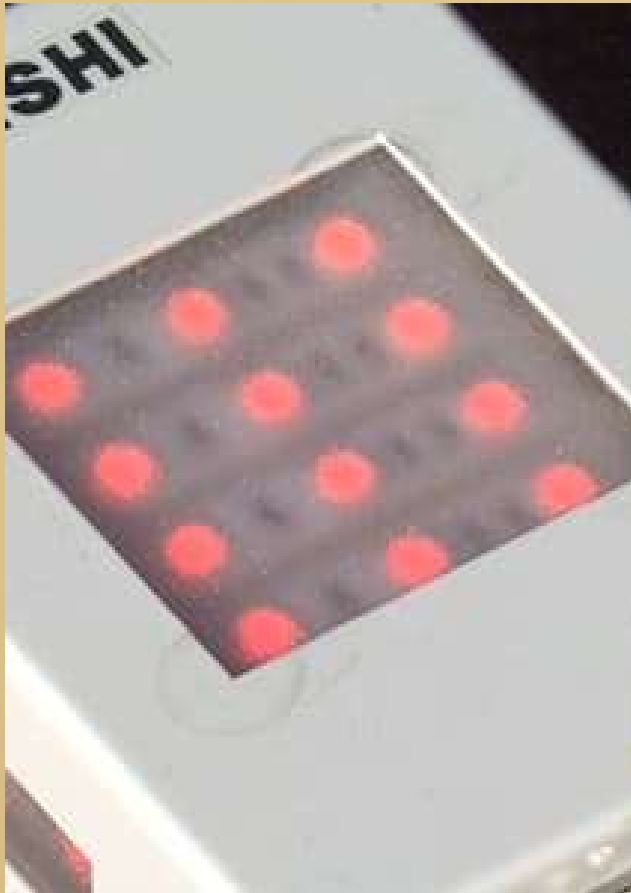
補聴器をしているから
聞こえる

デブ陸上の選手は
どうやってスタートしている？

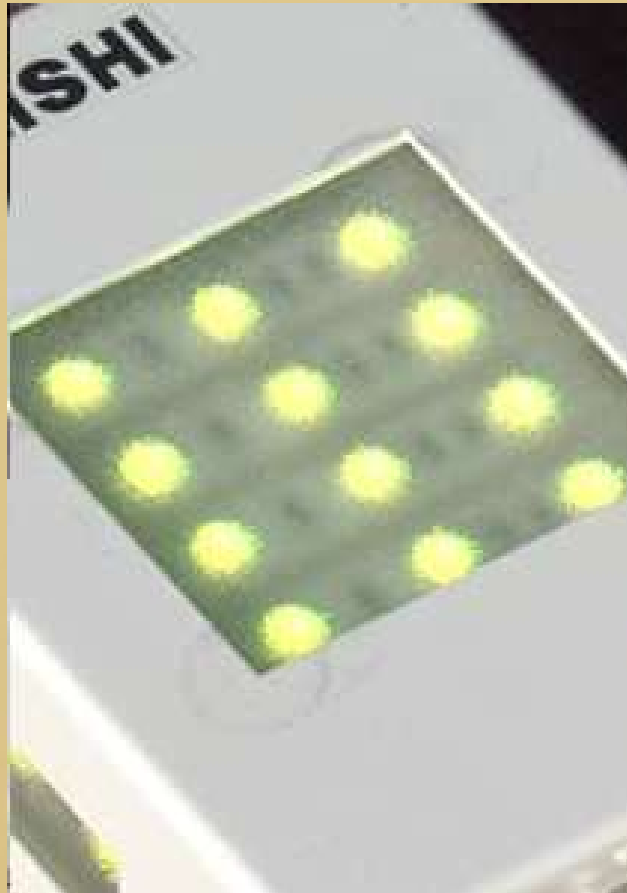
スタートランプ



いちについて



用意



スタート



<https://www.nhk.or.jp/shutoken/articles/101/018/05/>

デフリンピックは
社会モデルの考え方に基づく

この考え方をスポーツだけでなく、
日常生活にも広げていくことが大切

(聴覚障がいにおける) 共生社会を作るために、
あなたが出来ることは何でしょう？

①

聴覚障がい
について知る

②

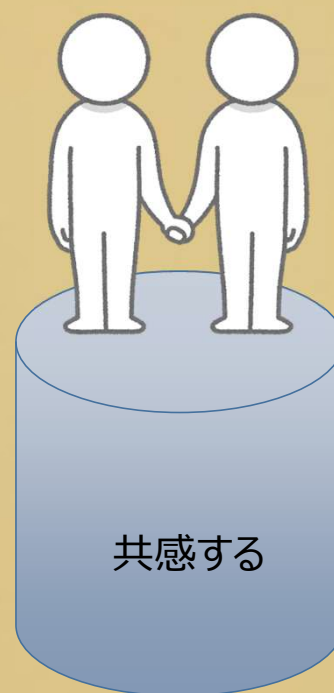
手話・筆談など
できる範囲で
工夫

③

情報を字幕
付きで
発信する

※すべて正解

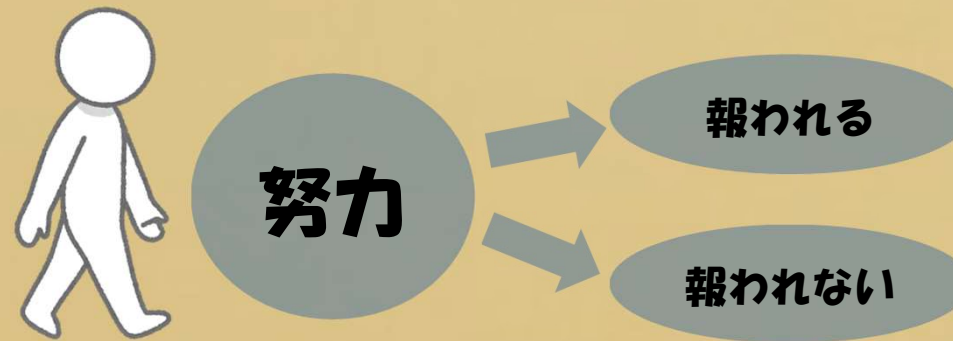
私たち聴覚障がい者のこと
デフリンピックについて
認知してもらうために



認知プロセス

私が大切にしている言葉

努力しても報われるとは限らない。
しかし、努力せずして、
報われるという選択肢は生まれない。



卓球に関わる努力ももちろんだが、
デフリンピック・社会モデルの啓発にも努力していきたい。
本日は、みなさまに何か一つでもお届けできていたら幸いです。